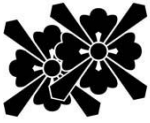


# 郷土のかぜ

仙台市民図書館 郷土資料コーナーから



重ね 剣菱

茂庭家

## 『地元学のすすめ』

市民図書館副館長 松島桂一

私は昨年度まで4年間、市民センター業務に携わらせていただき、本年4月から市民図書館に配属となりました。

市民センターは、各中学校区を基準に仙台市内で60館整備されており、市立図書館と並び、皆さまがいつでも気軽に立ち寄り、ご利用いただくことのできる社会教育施設の代表格ではありますが、各館ではさまざまな事業や講座、自主的なサークル活動等が行われています。

その中でも、ここ数年の流行となっていますのが、「まち歩きしながらの地元学」です。

著名人が特定の地域をブラブラ散歩して、さまざまな発見や出会いを楽しむという（私、個人的には大好きな）テレビ番組の影響があるのかもしれませんが、有名な名所旧跡に止まらず、地域の歴史上価値のある場所や物、隠れた穴場スポットなどを半日や一日かけて巡るのです。

地形、塚、道路、用水路、橋、神社仏閣、地蔵尊、石碑、辻標、旧家、施設、樹木等々。

興味と好奇心を持って歴史をひもといていけば、とても奥深く、驚きと感動も生まれるとのことで、市民センターに集い、共に歩き、図書館等で調査・研究し、そしてガイドボランティア養成講座で伝えるノウハウを学んだ有志の方が、一般の参加者の方々にわかりやすく丁寧な解説をしながらまちを歩き、地元学で得た知識を伝承されています。

また、文学者に関係するものもあります。私が関わらせていただき、特に印象深かった市民センター事業は、島崎藤村と佐々木喜善です。

2人とも一時期、仙台市内に居住されていたのですが、藤村の下宿先跡地（現在は藤村広場）がある名掛丁町内会の方々、喜善の終焉の地となった清水沼町内会の方々が、現在も地域の大切な誇りとして伝承活動をされています。

仙台は「地元学発祥の地」と言われています。

急速な都市化で失われていく風土、記憶等をその地域の人々から学び、残していこうとする地元学には、地域を大切に思う気持ち、情熱、向上心など必要ですが、発祥地の仙台人にはもともと十分に秘められていることがわかります。

さて、市民図書館の4階郷土資料等が並ぶフロアには、持出禁止の資料を熱心にお調べになっている方が多くいらっしゃいます。

図書館を利用いただいている方の多くは、各人の生涯学習の一環として自由に分野、時間等を選び使い、自分自身の目的のためにさまざまな図書と接していると思いますが、もし、その関連で「まち歩き」に参加したい、「地元学」に関する知識を誰かと共有したい、高めたい、提供したいというお気持ちがある場合は、ぜひ最寄りの市民センターに問い合わせてみてください。

その仙台人気質にかなう情報が人と地域とのつなぎ役に長けた職員から得られるかもしれません。

■ 前職で、市民センターとの連携行事は多くありました。挨拶の折、行事予定表を見ると盛沢山な行事がいっぱい。利用者あつての市民センターであり図書館でもありますね。

小石川 記

## 外国人から見た仙台市民図書館

Eddy Nelson エディ ネルソン

書物は、蒙昧な私たちを暗闇から導き出して、知識という光を与えてくれます。書物がなし得る役割を私たちが心底理解できた時、その存在価値はより一層高まり、私たちと書物の間に掛けがえのない関係が築かれるのです。人生は書物の一部であり、書物は人生の一部であるといえるでしょう。

私たちに住居があるように書物にもまた在るべき場所—図書館—があります。私は数年来、言語学研究や自身の執筆活動のために、仙台市民図書館に頻繁に通っていますが、ドミニカ共和国やスペインなど、他国の図書館を訪れて利用する機会もあります。

仙台市民図書館と私の母国ドミニカ共和国の図書館と比較してみますと、共に公共施設として、多くの共通点—学生への見学案内・図書の貸出業務・文化的催事の主催・学校の教育活動との連携 等々—があります。一方、大きな相違点として特筆に値するのは、仙台市民図書館が有する情報・書物の多様性だと思えます。ドミニカ共和国の図書館の場合、蔵書の大半は、歴史・文学・言語に類するテーマに集中していますが、仙台市民図書館にはあらゆるジャンルの書籍が揃っています。

とりわけ、私が最も感銘を受けるのは、スタッフの方々の利用者に対するプロフェッショナルな対応と提供するサービスの質の高さです。こちらが希望する図書のリサーチのみならず、関連書籍・参考文献に至るまでアドバイスいただくことが多々ありますし、図書以外のことに関する情報収集についても手厚くサポートしていただきます。常に利用者側の立場に立って、可能な限り問題解決に努めようとするスタッフの真摯な姿勢によって、私たちもまた繰り返し図書館に通うことになるのです。

最後に、国際的な視点から申し上げますと、情報収集のためのパソコン設置、英語および他言語版の新聞・雑誌・書籍を今後さらに充実させていただければ幸いです。仙台在住の留学生同様に、外国人観光客にとっても、それらは大変大きな手助けになることと思えます。

■ エディさん、大変熱心に4階郷土コーナーを利用されていらっしゃいます。考え事をするときのしぐさにひかれて原稿をお願いしたら、快諾していただきました。仙台市民図書館では、英語・中国語・韓国語の新聞や、英語の雑誌、各国語の書籍等を所蔵しております。ぜひご利用ください。  
小石川 記

新刊紹介 **鹽竈神社** 押木耿介 著 学生社 S175/ 本体価格 2,400円

はしがきに「鹽竈神社は東北鎮護の神として、早くから朝廷に厚遇されたばかりでなく、平泉の藤原三代をはじめ中世の武将・豪族のなみなみならぬ尊信を受けていた・・・」とあります。鹽竈神社を見ていくと興味深い記事を見つけました。それは、文治三年に和泉三郎忠衡（藤原秀衡の三男）が鹽竈神社に鉄灯籠（現存 P115～）を寄進したこと。同社の著名な神官・藤塚智明（1737-1799）の詳細が P139 から記載。難解な文字で知られている**蒙古の碑**（現在、宮城野区善応寺内にあります）についても紹介されています。本書は、鹽竈神社について詳細な記述がなされており、鹽竈神社を再認識する意味でもお勧めする資料です。



### ■ 編集後記

令和元年 になり最初の「郷土のかぜ」です。今回は外国からの利用者・エディさんにご無理を言ってお願いし、びっくりするほどの日本語でまとめていただきました。

「郷土のかぜ」を継続していくためには、ご利用者のお力をお借りしなければなりません。これぞという調査資料などありましたら、ぜひ原稿をお寄せください。

発行：仙台市民図書館 郷土資料コーナー (担当：小石川)  
〒980-0821 仙台市青葉区春日町 2-1 せんだいメディアテーク内 TEL 022-261-1585